

【事例紹介】

大学行政管理学会におけるグローバル
人材育成を担うSD研修
-関東地区研究会の活動を中心に-

Staff Development Programs Responding to the Demands to Turn out
“Human Resources with Global Perspectives” at the Japan Association of
University Administrative Management: A Case Study on the Staff
Development Training Programs Provided by the Kanto Regional
Research Group

大学行政管理学会理事・国際委員

学習院大学学長室経営企画課長 宮澤 文玄

MIYAZAWA Bungen

(Director of the Japan Association of University Administrative Management/
Head of Management Planning Section, Gakushuin University)

キーワード：大学行政管理学会、関東地区研究会、大学職員の国際化、FD・SD

はじめに

大学におけるグローバル人材育成という観点は、学生の教育や教員のFD及び国際研究に対する視座により展開されることが多い。しかしながら、近年はスーパーグローバル大学創成支援事業や私立大学等改革総合支援事業などで職員に対してもグローバル化が強く求められるようになって来ている。

そこで本稿では、大学職員に対するSD活動の職能団体としては全国規模の大学行政管理学会(以下、JUAM)における設立20周年を経た諸活動の中で、特に関東地区研究会での活動を中心に、これまでグローバル化に関する人材育成がどのようになされてきたか、学会諸活動の事例とともに現状の課題と展望の提示を行う。その中で、大学運営に関わる職員自身がグローバル人材となるため、どのようにSD活動との有機的な連携を目指すべきかについての考察を目的とする。

1. JUAMにおける国際交流活動

プロフェッショナルとしての大学行政管理職員の確立を目指して、「大学行政・管理」の多様な領域を理論的かつ実践的に研究することを通し、全国大学の横断的な「職員」相互の啓発と研鑽を深めるための専門組織¹としてJUAMは1997年に設立され、以降活発な活動を行い現在に至る約1,400名の会

員を擁する一般社団法人である。その設立は、孫福弘（慶應義塾大学、初代会長）、村上義紀（早稲田大学、初代副会長）、山本忠士（亜細亜大学、初代事務局長）の三氏が大学の枠組みを越えた管理職人材養成の必要性を議論し、職員の学会を作ることで一致したことから始まる。三氏とも1968年に発足したJAFSA²（外国人留学生問題研究会、現・国際教育交流協議会）の活動が一つの契機となっており、JUAM設立時の世話人や発起人にJAFSAの活動経験者が多いことから、JUAMのSDは国際教育交流活動に一つの起源が関連していたとも考えられる。現在のJUAM事業計画における重点課題でもグローバル化への対応を掲げており、そこには「グローバルな視点は創設時以来の伝統でもあり、これらを発展させていく」ことを表明している点からも、本学会はグローバル人材育成のためのSDに向けた組織としてJAFSAとともに国内関係団体としては大きな位置を占めているとすることができる。

実際にJUAMでは、学会の国際化を進展させるための組織として国際委員会を常設しており、その他全国規模での地区単位やテーマ別による様々な研究会を展開している。筆者は本務においてもこれまで国際交流の現場に携わってきた関係もあって、学会の国際委員会や関東地区研究会に参加し、これら活動の中で大学職員におけるグローバル人材育成に向けたSD活動の取り組みを行ってきたため、ここでの事例を次章より述べる。

2. 海外の各種機関との連携・協力関係の構築

JUAMでは各期毎に選任されている執行部により、単年度の事業計画を定めて理事会等で決定している。2017年度の重点課題のうちグローバル化に関する点は次のように掲げている。

グローバル化への対応

- ・ 研究者がそうであるように、世界の大学職員、同業者と切磋琢磨することが必要。
- ・ グローバルな視点はJUAM創設時以来の伝統でもあり、これらを発展させていく。
- ・ これまで連携・交流のあるAUA、KAUA、KAIEのほか、海外の諸団体との連携を進めるとともに、その内実について政策化し方針をもつ。

ここに記されているAUA、KAUA、KAIEとの交流の概要については、次項のとおりである。

2-1 AUA

JUAMでは、諸外国の高等教育をめぐる課題及び大学行政の管理運営に関する実践的研究を推進することを目的として、2003年度より英国の大学行政職員協会（The Association of University Administrators、以下AUA）総会に会員派遣を行ってきた。AUAとは1961年に設立された英国大学職員の職能団体であり、主な会員は英国及びアイルランドの高等教育機関に従事する大学事務職員や教員等となっている。なお、AUA³は組織の目的を次のように掲げている。

「私たちのビジョンは、各分野の活動を促進・援助するために、高等教育専門家の才能と大望を発展させ支援することです。」

このように、大学職員の職業能力開発や社会的地位の向上を目的として各種研究会や研修などを実施している点はJUAMの方向性と近似している。そのため、海外諸団体との交流は日本の大学職員にとっても学ぶべきことがあるという視点から、2005年度AUA総会において日本の大学行政管理学会セッションを開催し、それを契機として2005年9月にJUAMとAUAは相互交流を奨励する覚書を締結した。また2011年秋のAUA日本スタディツアーへの協力等を通して、両組織の関係は年々進み2012年4月にはそれぞれの年次総会・研究集会に会員を相互派遣する内容を盛り込み、協定書を再締結した経緯がある。しかしながら、図表1のとおり、相互派遣といっても実際は日本からの派遣がほとんどであり、先方から受け入れた年もあるが言語や受け入れ態勢の問題もあり継続はしておらず、後述する学会が定める基本方針「1. 対等の原則」で双方向の交流も踏まえている以上、協定内容と実際の運用については改めての検討も必要であると言えよう。

2-2 KAUA・KAIE

韓国大学行政管理者協会（Korea Association of University Administrators、以下KAUA）と、韓国国際教育者協会⁴（Korean Association of International Educators：以下、KAIE）は、いずれも別組織ではあるが、韓国内で主に大学職員を中心とした団体という点では共通している。

KAUAとは2004年設立の韓国大学職員による任意団体で、高等教育政策学会に加入している職員の提案から発足し、大学行政研究の発表、大学間交流、職員採用情報の提供などを中心に主にWeb上での活動を行ってきた組織である。また、KAIEとはJAFSAのノウハウと支援を受けて1998年に創立された国際交流担当者による協議会で、国際交流担当職員の相互業務協力と情報交換を通じ、国際交流の活性化に貢献することを目的として、韓国の大学の約半数が加盟している職能団体である。

まず、韓国の大学職員団体との交流については、JUAMの2005年度事業計画に遡ることができる。この前年度よりAUAとの関係から設立された国際委員会とも絡むが、同年度の重点計画の一つとして「海外諸機関との交流促進をAUA、IMUA⁵のほか、中国、韓国、東南アジア諸国等アジア地域にある高等教育機関等との交流・連携を推進する。」と掲げられ、この時点で交流・連携を推進する地域の一つとして挙げられるようになった。

具体的に韓国との交流が開始されたのは、2006年青山学院大学におけるJUAM10周年の国際シンポジウムにおいて啓明大学の呂副総長が参加したことにある。このシンポジウムは、国際委員会を中心にした企画であり、パネリストは英国・米国・韓国・日本の各大学から4名という構成であった。英国からの招聘者はAUAの会員との説明もあったが、当時の米国・韓国の大学との関係は定かではない。しかしながら、このときの会場校である青山学院大学は啓明大学校にとって、東京都内で唯一同

じキリスト教系の協定校であったことも関係していたようである。筆者の所属する学習院大学も同校の協定校であったため、懇親会の席で呂副総長と出会った際に確認してみたところ、協定校との関係もあって今回訪問した、というような話を聞いた。その後、筆者は学習院の海外研修で2009年度に啓明大学校の客員研究員として滞在することになった。副総長室で再会した際に改めてJUAMとKAUAの交流のきっかけを尋ねたところ、KAUAの会長が勤務する啓明文化大学が呂副総長の勤務する啓明大学校と同じ学校法人であった点が、JUAMと結びつく一つの契機となっていたことが分かった。

KAUAとJUAMの実際的な交流は、2008年6月21日にソウルの弘益大学校でKAUA主催の「韓・日大 学行政専門性向上」セミナーに、先方からの招請によりJUAMを代表して福島元会長と澤谷元副会長の2名が参加したことによって始まり、両名は次のような所感を述べている。「今回を契機にして、日韓の大学職員が交流して、相互の高等教育の発展を考えることは大いに意義があることだと感じました。韓国に限らず、東アジアの大学事情については詳しいことがよくわかりません。とりわけ大学職員がどのような状態にあるのか、我が学会としても意識的に交流を深めていく時期にきたのではないかと強く感じた次第です。」

このことからKAUAとの交流が始まったが、協定書のように何か具体的な目的が明示されたわけでもなく、AUAと同様に相互交流の形とは今もなっていない。KAUAとの交流は5年間不定期に続き、その後も韓国側から何度か招聘や派遣のオファーはあったものの、先方の都合により結果的には実現せずに現在に至り、AUAと同様活発な動きはないのが現状である。

そのような実際的な交流を見直す意味もあってか、2013年度の国際委員会と近畿地区研究会ではJAFSAと共催で、韓国の別の組織であるKAIEとのワークショップを開催した。このワークショップは、JAFSAとKAIEが以前より交流があった関係から、両組織に関わっていた余田勝彦JUAM元国際委員会委員長とJUAM会員でJAFSA常務理事を務めたことのある塩川雅美氏（元学校法人常翔学園）の尽力により、関西学院大学及び国際基督教大学において開催された。余田元国際委員長によれば「JAFSAの招待に応じてKAIEの会員が来日する機会を活用しJUAMのイベントを実施したい」という思いから実施に至り、これまでのKAUAとの関係も考慮して「今回、KAIEとの交流が発生することは、KAUAとの今後の関係に影響を持つようなことはない。」と、国際委員会内で述べていた。

このことから、JUAM全体の2014年度事業計画よりKAIEとの交流も盛り込まれるようにはなったが、以降組織的な交流はこの年を最後に行っていない。JUAMと海外諸団体との交流実績については以下のとおりである。

| | AUA | IMUA | KAUA | KAIE |
|--------|-----------|------|--------------|---------------------|
| 2018年度 | 1名派遣 | | | |
| 2017年度 | 派遣見送り | | | |
| 2016年度 | 2名派遣 | | | |
| 2015年度 | 派遣見送り | | 2名招聘 | |
| 2014年度 | 2名派遣・1名招聘 | | 2名派遣・2名招聘 | |
| 2013年度 | 2名派遣・1名招聘 | | | ワークショップ開催（JAFSA 共催） |
| 2012年度 | 1名派遣 | | 2名招聘 | |
| 2011年度 | 2名派遣 | | 開催中止（2名派遣予定） | |
| 2010年度 | 1名派遣 | | | |
| 2009年度 | 1名派遣 | | 4名招聘 | |
| 2008年度 | 2名派遣 | 1名派遣 | 2名派遣 | |
| 2007年度 | 2名派遣 | | | |
| 2006年度 | 1名派遣 | 開催中止 | | |
| 2005年度 | 3名派遣 | | | |
| 2004年度 | 1名派遣 | 2名派遣 | | |

(図表1) 出所：JUAM「事務局便り」（2004～2017年）

なお、2011年度までの事業計画には学会のビジョンとして「海外を含めて共通の目的をもつ多様な組織や団体と交流することを通じて、アドミニストレーターとしての通用性や視野の広がりをもつ」点を掲げていた。しかし、これらは各期毎に選出される役員により打ち出されているもので、執行部が変わるとこれらの方向性は概ね継承されていても、そもそもの国際化に向けた基本方針のようなものは存在しないため、一貫しているものではなかった。実際の活動が、いわゆる表敬訪問程度の活動に留まっていたこともあり、それ以上の展開が難しかった部分もあったのかもしれない。しかしながら、2017年度には学会創立20周年を迎え、様々な記念事業を検討する中で、今後のより具体的なグローバル化への対応も主要な論点となってきたことから、その一環として『国際連携・協力に関わる基本方針』を定め、これまでの年度毎の事業計画の重点課題との有機的な連携を図るようになった。この基本方針に基づき、国際委員会で下記のような活動計画概要を掲げるようになったことは、本学会及び構成員である会員各位にとって大きな進展となったと思われる。直近の活動計画は次のとおりである。

【2018年度国際委員会活動計画】

- ①継続事業として、英国で開催される AUA 総会への会員派遣プログラムを実施する。AUA 総会への JUAM 会員派遣に関しては、最大 2 名の派遣を想定。派遣者への補助金の交付に際しては、おって詳細を確定し、支出を行なう。派遣時期は 2019 年 3 月予定である。
- ②AUA 以外の諸外国における大学職員の職能団体との交流及び協力・連携の可能性を追求する。併せて、このような諸外国の職能団体との連携・協力に際しては、「国際連携・協力に関わる基本方針」に則った対応を行なう。
- ③20 周年記念事業としての「若手海外派遣事業－海外大学調査研修－」の実施については、既に派遣が内定している会員への支援を委員会として適宜行ない、研修成果の最大化に努める。なお、同事業の予算措置は別途による。

3. 創立 20 周年記念事業「若手海外派遣事業－海外大学調査研修－」

以上のような学会全体の国際化に向ける動きは見られたものの、これらはあくまで組織レベルの話であり、参加した特定の会員自身の SD 活動の場とはなっても、その他多くの職員のグローバル人材育成のための SD と直接は結び付いていなかったと思われる。組織間の交流があれば、当然そこに携わる国際委員等の意欲や能力は高まるものの、他の多くの学会員に及ぶものではない。一般の大学でもよく見られる特定の国際部門に集約されるような、所謂出島化とも共通していると言えよう。そのようなこれまでの反省も踏まえ、また、学会創立 20 周年事業という契機もあり、より多くの会員、特に次代を担う若手職員にグローバル人材育成のための SD の場を提供する案が理事会の方針とも一致し、新たに「若手海外派遣事業－海外大学調査研修－」を次のような概要で公募することとなった。

【募集要領】昨今のグローバル化の中、海外からの留学生や外国人教員の増加、諸外国の大学を始めとする様々な機関との連携推進等、大学職員の業務においても海外との関わりは日増しに多岐にわたり増大しています。また、大学設置基準の改正による SD の義務化に加えて、大学職員の専門職化も議論されており、海外の高等教育の動向や先進的な事例等への知見を深めることは、意義あることと考えています。そこで、JUAM では、20 周年記念事業の一環として、若手職員にそうした機会を提供するため、海外大学の視察・調査を目的とした海外派遣研修を実施いたします。諸外国における高等教育の実情や事例に直接触れる機会は、グローバル化を推進する職員の育成や自大学の施策等にも寄与するものと考えます。

この募集に対して、立命館大学、名古屋工業大学、名城大学、東京電機大学から計5名の応募があり、以下の申請のような研修を、この5名を一つのチームとして行うことが承認された。このような次代を担う若手職員が海外に渡航し、チームとして自ら定めたテーマ設定に基づく課題解決型の研修を行うことは、大学職員のグローバル人材育成にとって非常に意義のある内容となるであろう。JUAMでは学会創立20周年の最終事業として、この研修を契機に今後新たなSD活動の展開になることも大きな期待がされている。

【応募者の申請内容】

研修テーマ：モビリティとモチベーションの関係性

訪問希望先国名（予定）：イギリス、ドイツ、スウェーデン、オランダ

渡航日程（予定）：2018年9月16日～9月23日（8日間）

研修テーマは、「モビリティとモチベーションの関係性」とし、欧州大学間で展開されているErasmus+を軸とした戦略的取り組み等について、現地での基礎調査を実施することとします。

なお、Erasmus+では、アウトカムズの一つに“職員の日々の業務におけるモチベーションと満足度の増加”が挙げられているため、これに関する欧州内の複数の国、大学・団体の取り組みを比較検討したいと考えています。

4. 学会事業計画の重点課題に基づく関東地区研究会の活動

以上、学会組織全体と一部の参加者による国際化に係ることは概観できるが、双方向事業であるはずのAUAやKAUAとの実際の交流状況は一方通行という状況も踏まえ、JUAMのこれまでの20年から、次の20年に向けてどのような将来構想や中長期計画を持ち、これらと有機的な結びつけを持ってSD活動を展開するかが重要である。そのため、何のためにどのような観点を持って海外諸団体との交流を行うのか、今一度原点に立ち返る必要があることについて、周年事業の節目に学会全体の課題として、今後展開していく予定である。しかしながら、現状においても学会組織の国際化のビジョンは提示しているため、本来であれば個々の研究会においてもそれぞれの観点から組織目標に繋げて行く必要があるが、JUAMの傘下には多くの研究会があるものの、各部門では国際的な視座が少ないまま国内活動における研究に特化している状況が散見される。

そこで、筆者が代表を務める関東地区研究会では、学会全体の国際化に対するビジョンに基づき、「海外の教育・大学の状況を知る」シリーズを展開することとした。まずは、2017-2018年度の第4回関東地区研究会の場を活用して、2018年4月21日成蹊大学にて次のようなテーマで開催した。

第4回関東地区研究会 2018年4月21日 成蹊大学

テーマ：「近隣国(地域)の大学入試状況を知り、日本留学に向け大学職員ができることを考える
(香港編)」

・『香港の大学入学試験制度と受験生の動向について(香港DSEを中心に)』

公益財団法人アジア学生文化協会理事・事務局長 白石勝己 氏

・『海外で外国人学生を対象とした学生募集活動について』

早稲田大学国際教養学部事務所・海外学生リクルート担当 赤松茂利 氏

終了後、意見交換会(パネルディスカッション形式)

香港では大学数が相対的に少ないため国内大学進学率が約20%となり、高校卒業とともに海外の大学への進学(留学)を視野に入れる生徒が多いという背景が白石氏より説明され、その後、高校卒業時に受験する統一試験であるHKDSE(Hong Kong Diploma of Secondary Education)の具体的な内容について赤松氏より説明がされた。同試験の結果は現地大学入学試験として使われるが、当該試験の結果を日本への留学試験としても利用している具体例と、その業務における大学職員の役割についても紹介があった。その後、講師と参加者との間で質疑応答がなされ、当日は、大学関係者のみならず高校を含めた多くの教育関係機関からの参加もあり、各方面からの活発な意見や質問が展開された。

続く、第5回関東地区研究会を2018年5月26日学習院大学にて下記のとおり開催した。

なお、この時の研究会は前述の学会全体の国際連携で韓国の諸団体と交流を行ってきた流れもあり、JUAM初の試みで、学会の国際委員会と関東地区研究会の共催という形を取った。共催の趣旨は学会事業計画の重点課題にグローバル化への対応を掲げており、これに関連する研究会を国際委員会としても賛同したということがある。

第5回関東地区研究会 2018年5月26日 学習院大学

テーマ：「近隣国(地域)の大学入試及び高等教育改革の状況を知り、日本の大学や高等学校ができることを考える(韓国編)」

・『韓国における留学生政策の展開』成城大学 教育イノベーションセンター IR推進室 朴 炫貞氏

・『韓国の大学入学試験制度と受験生の動向について』関東国際高等学校 副校長 黒澤眞爾 氏

終了後、意見交換会(パネルディスカッション形式)

第一部の講演では、朴氏より韓国の高等教育に関する現況や展開、政策の背景が示され、全体を概観した。入試制度や外国人留学生の獲得戦略を中心とした改革状況について、IRの視点を持ったエビデンスを基にした話は大変説得力があった。続く第二部では、黒澤氏より韓国留学の経験を活かし高校の現場で高大接続改革を率先する副校長として、隣国の中・高等教育の最新情報を、日本では公開されていない一次資料から説明をされた。参加者との活発な質疑応答も行われ、両名の話を通じ隣国とのベンチマークの中で、日本の大学としての課題を共有することができたと言えよう。

なお、この2回の研究会には、関東地区のみならず全国各地からの参加者もあった。以下、終了後のアンケートから主に共通した感想を抽出する。

- ・初めて参加させて頂きました。他では聞けない貴重な情報を研究会で取り上げて頂き、とても満足しています。
- ・この海外シリーズは他の研究会ではなかった内容であり、ぜひ継続して欲しいです。
- ・アジアをターゲットにし、とても重要で話題性に富む研究会なので今後も参加させて頂きます。
- ・参加者ニーズを意識したトピック、資料準備、話法全て素晴らしかったです。

その他、多くの高評価を頂いたことから満足度の高い研究会であったと関東地区研究会としては総括している。この海外シリーズは大変好評であったため、続けて7月にはベトナム編を行った。また、今後のJUAMにとっても意義のある研究会であったと、参加した現職役員や元副会長からの意見も頂くことができた。なお、参加者数はこれら3回を通じて延べ150名を超える人数を集めている(2018年7月7日現在)。関東地区の研究会でありながら、北海道、秋田、新潟、福井、静岡、愛知、大阪、京都、兵庫、福岡、大分など広範な地域からの参加者(公務出張者も複数含む)があり無記名によるアンケートでは、全回答者から「大変よかった」又は「よかった」との評価を得ている。

5. 総会における発表

以上のようなこれまでのJUAMの国際活動における総括とこれからの課題について、2018年9月開催の桜美林大学における定期総会・研究集会において、周年事業の集大成として関東地区研究会と国際委員会の共催により分科会を開催することになった。内容については下記のような形での発表を予定している。

JUAM 第 22 回定期総会・研究集会 分科会 9月2日(日) 桜美林大学

(発題者及びパネリスト)

高橋 史郎 (早稲田大学国際教養学部事務長、本会副会長)

澤谷 敏行 (元・関西学院大学国際連携機構事務部長、元・本会副会長)

橋本 規孝 (立命館大学グローバル教養学部設置準備事務室課長補佐、本会創立 20 周年記念事業
「若手海外派遣事業－海外大学調査研修－」リーダー)

篠崎 裕二 (立命館アジア太平洋大学リサーチオフィス課長、本会国際委員会副委員長)

(コーディネーター)

宮澤 文玄 (学習院大学学長室経営企画課長、本会理事・関東地区研究会代表・国際委員会委員)

テーマ:「大学職員と JUAM の国際化～これまでの 20 年、そしてこれからの 20 年～」

大学の国際化の課題は、日本の高等教育が世界に伍して行くためには避けられないものであり、当分科会ではこのような問題意識に基づき、職務を通して様々な国際経験を積まれてきた 4 名の方に登壇頂き、講演及びパネルディスカッションを実施します。

最初に、これまで本務校の職員として、また学会員としても組織の国際化に深く関わってこられた新旧の副会長から、過去 20 年の歩みを語って頂きます。そしてこれからの 20 年を迎えるにあたり、くしくもこの総会直後の 9 月 16 日～23 日に、創立 20 周年記念事業「若手海外派遣事業－海外大学調査研修－」として派遣される会員団のリーダーから渡航計画の意義や抱負について語って頂きます。最後に若手海外派遣事業を所管する国際委員会副委員長より、本研修のねらいや今後の 20 年を踏まえた大学職員や JUAM の国際化の在り方を総括します。パネルディスカッションでは、各氏の講演を踏まえ、日本の大学の将来を担う全国の会員とともに、大学及び大学職員、さらには JUAM の国際化について議論を深めて行くことを目指します。

6. 今後の関東地区研究会の動向と職員のグローバル人材育成に向けて

JUAM は 1997 年 1 月設立以降、2017 年 3 月に一般社団法人へ移行した関係で、事業計画の年度切り替えは 7 月となる。新年度においても関東地区研究会では香港・韓国編に続き、継続してこの海外の教育と大学シリーズを開催し、諸外国の関係者との交流を通じた大学教職員の SD 活動の場とする方針を掲げている。新年度の第 1 回は 7 月 7 日にベトナム編として、ダナン外国語大学の講師とベトナム社会科学院・社会科学情報研究所の研究員を招聘し、「ベトナムの教育と大学を知る」という主題の研究会を開催し、前回までと同様に全国各地から多くの出席者を集めた。

またこれ以降も、関東地区研究会では他の諸外国編の企画や、今後は実際に海外の大学視察を含めたスタディツアーも計画している。具体的に決定しているのは今夏の台湾への訪問である。台湾の文

部科学省にあたる教育部傘下にある日本台湾教育センターとの共催で JAFSA の後援も頂き、日本の高校の校長や教頭とともに、大学側として JUAM の会員を集め、高大連携事業の形とした、台湾の大学訪問を予定している（2018年8月5日（日）～8月8日（水））。これら関東地区研究会の活動は、基本的には学会員を対象としているが、2017年度からの大学設置基準のSD義務化に伴い、広く国内大学教職員のSDに向けた研究会として非会員にも参加を募っている。関心のある関係者はJUAMの公式WebサイトやJAFSAメーリングリスト等で確認をして欲しい。

以上、JUAMの国際化と関連するSD活動のこれまでの歩みを概観してきた中で、職員のグローバル化人材への期待は益々高まり、今後の大学経営を担う流れは確実に増えて行くことは明らかであろう。そのためのSD活動の拠点として、単独の大学ではできない横断的な人材育成を今後もJUAMとして進めて行く必要性を筆者は強く感じている。特に、多くの大学が存在する関東地区研究会では、本学会が目指すビジョンに基づき、大学職員のグローバル人材育成の場の一つとして確立するよう努力して行きたい。

そして、このようなOFF-JTを通じ、その一人一人がグローバル人材となるよう各大学でのOJTとも連動させて、職員自らが主体性を持ち教員や学生とともに、新しい時代における世界の中の日本の大学を築き上げて行けるようになることを切に希望している。

¹ JUAM ウェブサイト <http://juam.jp/>（2018年7月1日確認）

² JAFSA ウェブサイト <http://www.jafsa.org/>（2018年7月1日確認）

³ AUA ウェブサイト <https://aua.ac.uk/>（2018年7月1日確認）

⁴ KAIE ウェブサイト <http://www.kaie.org/>（2018年7月1日確認）

⁵ IMUA (International Meeting of University Administrators) へのJUAMからの派遣も存在し、2004年8月には北京大学へ2名の派遣を行った。その後隔年で1名派遣して以降は継続しておらず、近年の事業計画でも触れていないため、本稿では取り上げない。なお、IMUAは国際的な観点から高等教育の諸課題について議論することを目的として1981年に設立され、世界各国の都市を会場に隔年で開催される会議体である。

【参考文献】

- 宮澤文玄（2009）「韓国の大学職員における職能開発に関する実証研究」『大学行政管理学会誌』第13号
 大学行政管理学会 大学事務組織研究会編（2018）『大学事務職員の履歴書』学校経営研究会
 大学行政管理学会（2004～2018）「事業計画」
 大学行政管理学会（2004～2017）「事務局便り」